

## 15分で学ぶ！ 障がい者支援の基礎

知的・発達障がい者の高齢期への準備  
～変化に気づき早期に対応するために～

講師：岡田 裕樹  
(国立重度知的障害者総合施設のぞみの園 研究員)

### 第一回 「知的・発達障がい者の高齢化」

1

## 講義のポイント

今回の講義のポイントは…

- ① 障がい者の高齢化
- ② 知的障がい者、ASD、ダウン症の高齢化
- ③ 知的・発達障がい者の認知症
- ④ まとめ

…となっています。

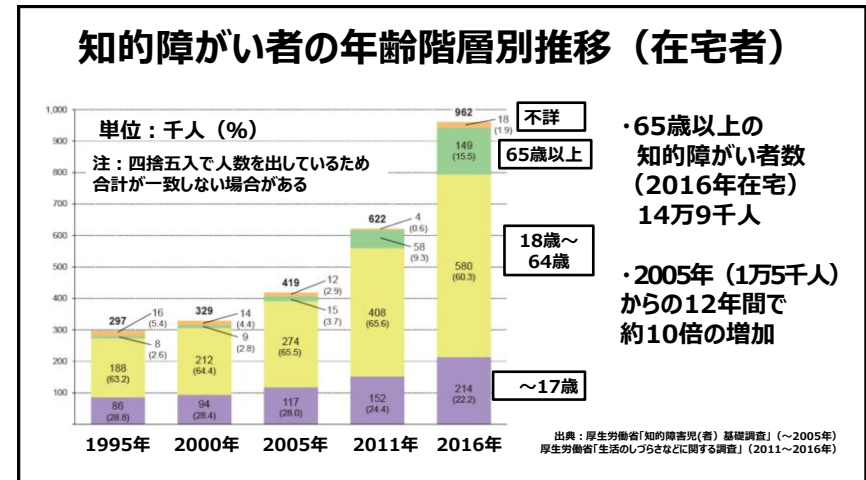
2

## 障がい者の高齢化

- 障がい者の高齢化が進んでいる
  - ・65歳以上の障がい者の割合 46%→52%
  - ・うち身体障がい者の割合 62%→74%  
(2006年→2016年 (在宅)、2018年 (施設))
  - ・うち知的障がい者の割合 4%→16%  
(2005年→2016年 (在宅)、2018年 (施設))
  - ・うち精神障がい者の割合 34%→39% (2008年→2017年)
- 就労系サービスでも高齢化が進んでいる
  - ・就労継続支援B型の65歳以上利用者  
10,962人 (2014年) → 21,284人 (2019年) 約2倍に増加

(文献) 厚生労働省「社会保障審議会障害者部会」、「障害福祉サービス等報酬改定検討チーム」会議資料より

3



4

## 知的障がい者の高齢化（先行研究より）

- 知的障がい者は寿命が延びている
  - ・医療の進歩、生活環境の改善など
- 知的障がい者は身体機能の低下が早く、急速に進む傾向
  - ・40、50歳代から老化の兆候がみられる場合がある
  - ・なおかつ早期に多様な疾病に罹りやすい
- 疾病の罹患も多い傾向



**障がい者支援施設（A園）で既に死亡した72人が生前にかかった疾患**

- ・消化器系疾患 58人（80.6%）
- ・目及び付属器 51人（70.8%）
- ・呼吸器系疾患 47人（65.3%）
- ・運動機能の障がい 46人（63.9%）

※一人あたりのかかった疾患数は、平均7.7種類（中分類数）

5

## 知的障がい者の健康状況（死亡原因）

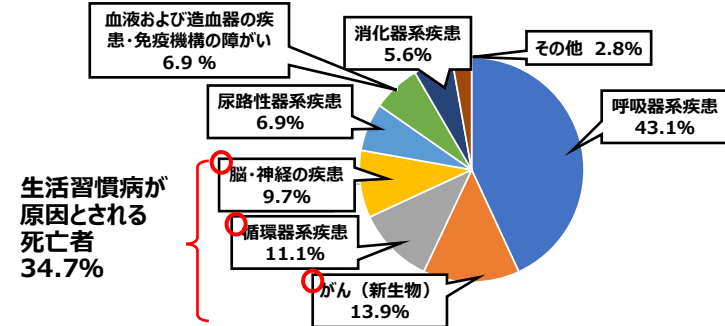


図1 障がい者支援施設（A園）で生活する高齢知的障がい者の死亡原因

6

## 知的障がい者の健康状況

- 通所施設では…（先行研究より）
  - ・通所利用者を対象とした調査
    - ➔BMI25以上の肥満と判定される者は、男性が調査対象者の65.2%、女性が68.8%であり、一般成人との比較では男女とも有意に高値であった
  - ・要因として…
    - ① 食べることに以外に興味関心が広がりにくく、余暇の内容が乏しい
    - ② 自己のボディイメージを捉えることの困難さや過剰な食物摂取と肥満の関連性への理解不足が考えられる



7

## 知的障がい者の健康状況

- 間食などの食習慣は長い時間をかけて形成されるもの
  - ➔学童期や思春期から適切な食習慣を身につける必要性は大きい
- 生活習慣病の背景
  - ➔内臓奇形や重い運動障害、難治性てんかんを合併する割合が高い
  - ➔加えて、本人の訴えに周囲が気づかず手遅れになりやすい
- 見えにくい「変化」
  - ・まわりからは気づきにくく、支援が遅れる可能性
    - ➔歯、聴力、視力…



8

## ASD(自閉症スペクトラム障がい)の高齢化 (先行研究より)

- 知的障がい者と同様に身体機能の早期の低下や罹患する疾病の多さが指摘されている
- 背景要因として考えられること
  - ・てんかん（発生率が高く、てんかんに関連したリスクが高い）
  - ・睡眠障がい（昼夜逆転、不眠など）
  - ・精神疾患（うつ、強迫性障害、不安障害など）
  - ・多剤服用（抗てんかん薬、精神科薬など） など
- 加齢にともなう行動の変化
  - ・大切なのは・・・
  - 経験の蓄積、見通しの持てる生活、本人の特性に合った環境

9

## ダウン症の高齢化 (先行研究より)

- 早期、急激な老化
- 認知症の発症リスク
  - ・医学の進歩によって1920年代には10歳にも満たなかった平均寿命は2000年には約50歳となった
    - ➡ 一方、認知症を罹患するダウン症者が増えている
  - ・イギリスの研究では、アルツハイマー型認知症の早期発症リスクが指摘されており、発症のピークは50代前半
  - ・アルツハイマー発症の引き金となる脳内物質に関わる遺伝子が21番染色体に存在することから、21番染色体が3本あるダウン症者は理論上一般成人より早期に発症しやすい

10

## 知的障がい者の認知症の状況

知的障がい者数 108万2,000人  
(在宅者：96万2,000人、  
施設利用者：12万人)

65歳以上の知的障がい者数  
17万8,000人  
(在宅者：14万9,000人、  
施設利用者：2万9,000人)

認知症高齢知的障がい者数  
？

一般的に言われている  
65歳以上の高齢者の  
認知症有病率16.7%



認知症  
高齢知的障がい者数  
≒  
3万人 (推計)

11

## 知的障がい者の認知症 (先行研究より)

- 高齢知的障がい者の認知症罹患の特徴
  - ・認知症の診断名ごとに認知症特有の心理症状および行動障がいが出する。
  - ・障がい者支援施設（A園）で認知症の診断を受けた利用者は、50歳代が30.0%と最も多く、次いで60歳代が27.5%であった。
  - ・一般的な認知症罹患データに比べて・・・
    - ①より早期に罹患し、
    - ②発見が困難で、
    - ③罹患した場合のケア方法が確立していない



知的障がい者の認知症についての事例はまだ少なく、今後の課題

12

## 知的・発達障がい者の高齢化（まとめ）

● 先行研究より、高齢知的・発達障がい者、特にダウン症者は  
身体機能の早期の低下や罹患する疾病の多さが指摘されている

### ● 背景要因

- 食事習慣や運動習慣などの関係
- 体調の変化に無自覚
- 変化を伝えることが不得意、困難な場合が多い
- 健康診断未受診（在宅の者に多い）



● 本人の訴えに周囲が気づかず対応が手遅れになりやすい状況がある



本人の変化に周囲の者が早期に気づくことが重要

## 締めの一と言

- 障がい者の高齢化は今後さらに課題となります。  
変化に気づいて適切な支援ができるための手立  
てを考えていきましょう。

13

14

話し合いシート		法人名	
視聴日時	年 月 日 ( )	事業所名	
	時 分 ~ 時 分	氏名	
受講後の感想 (気づいたこと、学んだこと、これ から取り組んでみたいことなど)			
疑問に思ったこと、質問したいこと など			
備考欄			

15